

とうめい



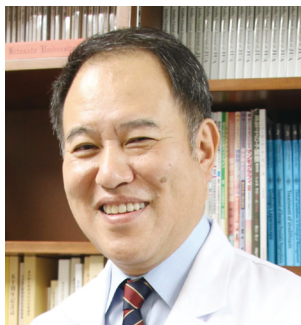
春らんまん

平成元年（1985年）頃、岐阜の知人から頂いた桜で、植えてから25年間桜の花があまり咲かず、諦めて代桜しようと考えていた5年前に突然満開の桜の花が咲いた、奇跡の桜です。
(フォトサークルA 杉山 和子)

●目次

春らんまん	1P	かけはし ～登録医紹介～	5P
医療記事「就任のご挨拶」	2P	働く仲間	
名誉院長 ロボット手術センター長 岩村 正嗣		第2事業部	6P
リハビリ通信	3P	がん相談支援センター	
腰痛を予防するために		『とうめい』は200号を迎えました!	
マイバレンタイン検診開催されました		災害時の「トイレ」問題	7P
特集 第5事業部	4P	ペットのはなし	8P
第5事業部のご紹介		編集後記	
		関連施設一覧	

就任のご挨拶



岩村 正嗣

名誉院長・ロボット手術センター長◆岩村 正嗣

立腺癌や腎癌をはじめ、数多くのロボット支援手術を手掛けております。

近代外科手術の歴史は、低侵襲化を目指した手術手技と機器開発の歴史と言っても過言ではありません。現在に至るまで、何とかこの侵襲を軽減できないかと様々な手技や機器が開発され、応用されてまいりました。

4月1日付けで名誉院長、ロボット手術センター長として赴任させていただいた岩村正嗣（いわむらまさつぐ）と申します。この度、ご縁を得て東名厚木病院に勤務させていただくにあたり、この場をお借りしてご挨拶させていただきます。

私は、3月末まで北里大学医学部泌尿器科学で主任教授を務めておりました。大学病院では主に、内視鏡手術や腹腔鏡手術などを専門とし、長年にわたり泌尿器科低侵襲治療の実践と教育、普及に従事してまいりました。2013年には大学病院に手術支援ロボット d a v i n c i を導入し、前

えや硬直によるフレイルを予防することができます。

腹腔鏡手術には低侵襲という大きなメリットがある一方で、手術手技が開腹手術に比較して難しいといったデメリットがあります。したがって腹腔鏡手術を習得するには多くの経験が必要で、優秀な専門医を育てることに時間がかかることや、術者や施設などによって治療成績に差が出てしまうことが最大の問題でした。

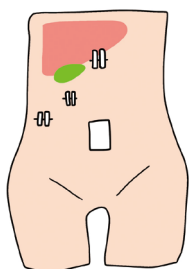
d a v i n c i を始めとする手術支援ロボットは、この腹腔鏡手術の難度を著しく低減することが可能で、現在29の手術が保険適応となり、650台を超すロボットが全国で稼働しています。ロボットを用いることで腹腔鏡手術が易しく実施できるようになれば、経験の少ない外科医でも質の高い手術を行うことが可能となり、また経験豊富な外科医にとっては腹腔鏡手術の適応が広がり、従来の腹腔鏡手術単独では困難とされた患者さんに対

しても低侵襲手術が提供できることが期待されます。

d a v i n c i は米国で開発され、1999年に臨床応用が始まりました。

この度東名厚木病院に導入された d a v i n c i X i は北里大学病院と同じ最新型の第4世代に当たります。近年、複数の手術支援ロボットが開発されていますが、25年に及ぶ d a v i n c i を臨床実績は大きな信頼に値するものと考えています。この最新機器を泌尿器科に限らず横断的に積極的に活用し、多くの患者さんに安全で、質が高い低侵襲手術が提供できるよう努力していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。



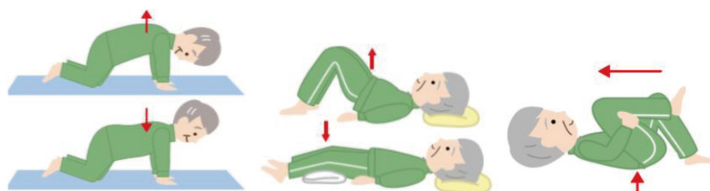
リハビリ通信 第67回

腰痛を予防する ために

国民生活基礎調査では、病気やけが等で自覚症状のある者のうち、腰痛は男性では第1位、女性では第2位で、多くの人々が腰痛に悩まされているのが実情です。腰痛を予防するためには、①初発腰痛の発生率を下げる②慢性化や悪化を防止する③再発を予防することが重要と言われています。腰痛とは、腰背部や臀部の痛みの症状をあらわす名称であり、様々な病態が関与しています。医師の診察や検査の結果では、腰痛は特異的腰痛と非特異的腰痛に大別されます。特異的腰痛とは、診断法が確立し原因が特定できる腰痛であり、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、圧迫骨折などの脊柱由来のもの、脊椎腫瘍などの神経由来のもの、解離性大動脈瘤などの内臓疾患由来のものがあります。一方、非特異的腰痛は、医学的原因が厳密には特定できない腰痛です。その中

には「ぎっくり腰」のように腰椎やその周辺組織のどこかに痛みのある可能性が高いものの、その損傷部位が明確ではない場合も非特異的腰痛に分類されます。腰痛の発生要因は、動作要因や環境要因、個人的要因があります。近年では心理社会的要因も腰痛発生や慢性化、悪化に関連するとして注目されています。では、腰痛を予防するためにはどうしたらよいのでしょうか？運動・身体活動が有効とされていますが、ストレッチを日々習慣にすることも大切です。

ストレッチの効果は①疲労回復（筋肉の血流量増加による筋肉内の疲労物質排除）②けがの予防（筋肉の柔軟性改善）③リラクゼーション（筋疲労緩和・気持ちのリラックス）が代表的であり、腰痛予防に繋がります。今回は腰痛予防に効果があると言われているストレッチを3種類紹介してみたい。



リハビリテーション科
橋本 健太郎



MYバレンタイン検診

開催されました

東名厚木メディカルサテライトクリニックでは、毎年2月に「MYバレンタイン検診」を開催しています。「MYバレンタイン検診」は、平日は仕事や家事、育児などで検診を受ける機会の少ない女性のため、毎年2月の日曜日に開催しており、乳がん（マンモグラフィーまたは乳腺エコー）、子宮頸がん、骨密度、血液検査（甲状腺検査・腫瘍マーカー）など、女性に多い病気の早期発見につながる検査をセットで受診できることが特徴です。また、当日は女性スタッフのみで対応し、より安心して検査を受けられるよう配慮しています。

今年は2月18日に開催され、44名の方にご受診いただきました。アンケートでは、「マンモグラフィーと乳腺エコーの両方が受診でき、一日で気になるがん検診をすべて済ませることができるの

でとても楽でした」「医師も女性の方で安心だった」などの回答をいただいております。今回の受診が2回目、3回目というリピーターの方も多数参加いただいていることから、ご好評いただいていることが伺えます。

30代から80代まで幅広い年齢の方が受診されましたが、乳がん・子宮がんは若年齢層にも発症の可能性あります。お子様など、若い世代にも話題を広めていただき興味を持ってもらえるよう資料ブースを設け、啓蒙に取り組みました。

気になってはいるけれど、忙しくてなかなか検査が・・・という女性の方も多はず。次回のMYバレンタイン検診は、ぜひ受診してみたいかがでしょうか。



第5事業部



とうめい厚木クリニック



とうめい宮の里クリニック

今号では法人の第5事業部をご紹介します。第5事業部はとうめい厚木クリニックと、今年度からとうめい宮の里クリニックを管轄・運営する事業部です。とうめい厚木クリニックは、東名厚木病院の外来診療部門のクリニックとして、2002年に独立施設として開設し、2007年から現在の敷地で診療を開始しております。今年で23年目を迎えます。とうめい宮の里クリニックは、以前閉院していた宮の里クリニックを改修し、宮の里地区の地域に根ざしたクリニックとして2022年にオープンしました。宮の里クリニックはかかりつけ医としての機能をメインにしております。とうめい厚木クリニックは1日平均患者数が600-700名と増加傾向にあり、東名厚木病院に入院されていた患者さんの外来フォロー部門、あるいは東名厚木病院で検査や手術、治療をされる患者さんの入口部門としての機能も重要な役割です。地域の医療機関からの紹介患者さんや、近隣地域にお住いの患者さんに、幅広い診療科とさまざまな検査機器で高度な診療を行うクリニックとしての責務もございます。

多様化する時代に合わせたクリニックをめざして

さて、今後を見据えた新しいクリニック像を考えてみたいと思います。2人に1人ががんに罹患する時代、超高齢化の社会になりますので、予防医学を含めたトータルケアを提供できるクリニックが要求されると思います。専門診療科と併存する形で、総合診療科を充実させて、持病で通院中の患者さんに生活習慣病検診やがん検診を年間計画として提示するなど重要な役割となってきます。元気と思って生活され長年受診されていない患者様の中には、病勢が進んだ段階で受診される方が散見されるのも事実です。一病息災こそが、今後いつまでも元気で健康にいられる秘訣であると考えています。

キーワードは「連携」

一つは東名厚木病院との強力な連携です。県央地区のがん診療連携指定病院である東名厚木病院は今年4月からロボット支援手術も導入いたします。がんは診断から治療・退院後の療養までシームレスな対応が望ましい疾患です。同じチームの医師、看護師、メディカルスタッフが地域完結で、トータルでサポートする体制を整えています。もう一つは、地域の先生方との連携です。当院では多くの地域の先生方と連携し、病態の悪化時には紹介頂き、状態が安定しましたら、また近くの地域の先生にフォロー頂くという地域内での連携を今後さらに強化してまいります。

予防医学の観点重視したクリニックのかたち

ご病気の時にすぐ受診することも重要ですが、日頃から生活習慣病やがん検診を行い、病気を未病の段階で予防していくことも必要です。勤務で忙しい患者さんには、別個に時間を割き検診に行かずに済むよう、クリニック内でがん検診を中心とした予防医療に力を入れています。宮の里クリニックは設備の関係で一部のがん検診は対応できませんが、とうめい厚木クリニックではすべてのがん検診を効率よく検査できます。どうぞお気軽にお問い合わせください。



かけはし

登録医紹介

あさひ皮膚・形成クリニック

vol.47

院長 武内 嵩幸

この度、寄稿の機会を頂けますことを大変光栄に思います。この貴重な場をお借りして、あさひ皮膚・形成クリニックについて少し紹介させていただければと思います。

あさひ皮膚・形成クリニックは、地域の皆様からのアクセスが容易な場所、本厚木駅の南口から徒歩数分の場所に位置しています。日々の診療を通じて、皮膚科と形成外科の専門性を活かし、体表のさまざまな疾患に対応しております。一般皮膚科から、小児皮膚科、手術が必要な皮膚外科領域、良性腫瘍の手術や、眼瞼周囲の手術も取り扱っています。また、美容皮膚科も標榜しており、皆様の美と健康を支えるため、最新のレーザー治療を含む多様な治療法をご提供しております。シミやホクロ、シワやたるみなどの治療も近年多様な選択肢が出てきています。患者様お一人おひとりに合わせたきめ細やかな治療を心がけております。

東名厚木病院と連携させていただくことで、より専門的な医療が必要な場合もスムーズに対応できるような体制作りを心がけております。地域の皆様が安心して医療サービスを受けられるよう、努め続けます。地域の皆様の健康を守る一助となれるよう、スタッフ一同、誠心誠意をもって取り組んで参ります。

《所在地》

〒243-0014
神奈川県厚木市旭町1丁目25-1
本厚木ミハラス2F
電話 046-227-0101



本厚木駅 南口より直結 徒歩1分	
あさひ皮膚・形成クリニック	
Asahi Skin Clinic	
■皮膚科 ■形成外科 ■美容皮膚科 ■小児皮膚科	
診療時間	月 火 水 木 金 土
9:30~12:30	● ● ● ● ● ●
14:00~18:00	● ● ● ● ● ●
◆9:30~14:00	休診日：木曜・土曜午後・日曜・夜日
厚木市旭町1-25-1 本厚木ミハラス2F 203-4	
☎046-227-0101	

働く仲間

入職／平成15年1月6日

氏名／川口 奈緒美

医療支援部 医師事務支援室



当法人に入社してから20年経ちました。この20年の中では新病棟の建設等多くの変化がありました。私自身も様々な職種を経験させて頂き振り返るととても長いようで一瞬のようにも思えます。

当初CL外来クラークに従事し患者様に近いところで先生方や看護師の方をサポートさせて頂きここで医療従事者としての基礎を学ばせてもらったと思います。その後は医事課や、ICT室立ち上げ等、様々な経験をしました。時には研修の機会を頂き、現在は医師事務支援室に至ります。職種が変わる中でも「患者様がどう感じるか？」を常に心掛けた対応を大切にしてきました。

これからも東名厚木病院を支える職員として業務に取り組んで参ります。

入職／平成26年4月1日

氏名／一戸 裕貴

診療技術部 臨床工学科



● 医療機器が安全に使用されるように

医療現場で働かっていると、様々な医療機器を見かけると思います。私たち臨床工学技士は、その一つ一つの機器について学び、安全に使用出来るように管理することを業務としています。管理するとは主に、機器の使用前後、あるいは定期的に点検を行う事で、機器に異常がないことを確認すること。機器が正しく使用されているか観察、確認すること。実際に診療の現場で機器を使用すること、などを指します。

また、当院では2024年度より、ロボット支援手術が開始となります。今までよりも高度で精密な機械が導入され、より繊細に取り扱う必要があります。医師や看護師が新しい技術を身につける中で、私たちも培ってきた経験や知識を活かして、当院のロボット支援手術の成功の一助となるよう努めたいと思います。

第2事業部

看護小規模多機能型居宅介護事業 “いわしぐも” ♪ 遠足に行きました♪

いわしぐもでは、遠足を2回企画し利用者と交流いたしました。

第1回目は、ご利用者が七夕飾りの短冊に書いた願いを叶えるべく、サマージャンボ宝くじを買いに商業施設へ。宝くじをみんなで購入した後とはフードコートで一休み。職員も一緒に楽しみました。

第2回目は、相模原のふれあい科学館へ少し遠出をしました。お天気にも恵まれ、淡水魚などの生き物をゆったりとみる事が出来ました。ご家族も参加され、近くの商業施設で一緒にランチを楽しみました。

両日ともご利用者の笑顔が満開でした。職員も一緒に楽しみ、普段とは違う交流ができる良い機会となっています。とても好評をいただき「次も出かけて



みだいね」とのお声をたくさんいただいています。

さあ、次はどこに行こう？
色々と計画しています。



がん相談支援センターだより



3月16日(土)プロミティあつぎにて東名厚木病院がん相談支援センター主催がんサロン「ココが知りたい！医療講座緩和ケア もうひとつのがん治療」が開催されました。

講義では緩和ケア内科飯田医師による緩和ケアについての講演とがん相談支援センターのご紹介を行いました。当日は初めての場所にもかかわらず32名と多数のご参加を頂き、また当日には沢山の質問を頂くことができました。

緩和ケアについて知ることが出来、安心したというお声を頂き、病院では話しにくいことや聞きにくいことが確認出来る機会になったのではないかと思います。

今年度最後のがんサロンとなりました。次年度もまた引き続き地域の皆様との交流の場を設けていきたいと思ひます。くわしいお知らせはまたホームページや院内掲示にてお知らせ致しますのでご期待ください。



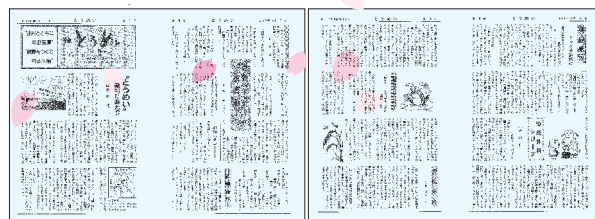
『とうめい』は 200号を迎えました！

昭和56年10月に創刊され、今回200回目の発刊となりました。年間約4回、ときには臨時号発刊の積み重ねによるものです。調べたところ、『とうめい』は職員からの公募、題字は当時市内で書道教室を主宰している先生にお願いしたそうです。モノクロだった印刷は2色刷りとなり、現在ではカラーへと移りました。

編集委員は、欠員の補充により1年のみの約束で気楽な参加からのスタートでしたが、初刊から携わってこられた方の思いを受け継ぎ、気がつけばまさかの現在に至ります。長く続いているペットのはなしでは、とても癒されています。

手に取る広報誌だけでなく、ホームページでも読むことが出来ます。いろいろな方のご協力により、中断することなく号数を重ねることができました。

これからも250、300号と東名厚木病院と共に末永く和やかに続けていけたら、と思っています。(豆大福)





災害時の「トイレ」問題



大きな災害の度に、電気や水が使えなくなり、話題となっている「トイレ問題」!!

ですが、「トイレ」を我慢できるでしょうか？

ある被災者へのアンケートでは、発災後6時間以内に7割の人がトイレに行きたくなくなったといわれています。

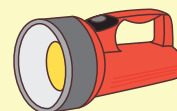
自宅トイレも、避難所も水は流れません。仮設トイレは、すぐに設置されるわけではありません。

設置されても、集中による混雑や、雨や雪では屋外トイレに行くことは大変です。夜は照明がないことも多く、「怖くていけない」と訴える方も…

中にはトイレの不安を軽減するため、「水分の摂取を控えてる!」という方もいます。

ですが水分を制限すると、体力低下で感染症にかかりやすく、脱水症状やエコノミークラス症候群になる危険性も高まり、重症化すると死に至ることもあります。

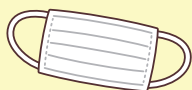
また、トイレなどの動作が少なくなると、筋力も落ちてしまいます。



では、水が流れるトイレを使っても良いのでしょうか？

建物の被災により配管が壊れても見えないことが多く、自宅や避難場所、マンションなど集合住宅では他のお宅に、汚水があふれる可能性があります。

また、災害時は上水道だけでなく下水道や污水处理施設も被災し、長期の復旧期間がかかります。みんなが使い続けられれば、逆流する恐れも出てきます。



「災害時、水洗トイレは使えない」

皆さんも覚えて、多くの方に伝え「トイレ問題」を少しでも少なくしましょう!

自分や家族で出来る方法を覚えましょう!

① 自宅のトイレを「使えるトイレ」にする → 携帯トイレ

- 自宅トイレの便座を上げて、ゴミ袋をかぶせる
- 便座をおろし、携帯トイレのビニールをセットする
- 凝固剤タイプでは…排泄後に凝固剤を振りかける
シートタイプでは…ビニールの中にシートをセット
- 終わったらしっかり縛って、蓋つきのごみ箱などに保管する

※ 脱臭剤があれば入れておきましょう!

② 家族が最低3日間使用する携帯トイレの数を知る

- 家族〇人×5~6回(1日の排泄数)×日数

1週間程度の量を備蓄することが推奨されています。

携帯トイレ

災害で断水しても
建物内のトイレを利用できる

- 袋の中に吸収シートや凝固剤を入れて、大小便を固めることができる



- 使用後は可燃ごみとして収集されるまで保管する
※市町村の確認が必要

- 便器にポリ袋を被せておくことで、携帯トイレが濡れるのを防ぐ

災害用トイレガイド



NPO法人 日本トイレ研究所 / 災害用トイレ普及・推進チーム

編集後記



●今回が記念すべき200号となります。今後も当院の取り組みと魅力を伝えて参りますので、ご愛読いただけますようよろしくお願いいたします。

(クッキー3)



●旅先でのエッグタルトは幸せの味♪
(豆大福)



●花より団子。
(おちやがかり)



●少しだけ咲いていたので東京タワーと。青空で気持ちがいい1日でした。
(ビッキー)

各施設の連絡先

東名厚木病院

〒243-8571 厚木市船子232
TEL.046-229-1771 FAX.046-228-0396
<https://www.tomei.or.jp/hospital/>

とうめい厚木クリニック

〒243-0034 厚木市船子237
TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935
<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

透析センター

〒243-8571 厚木市船子232
TEL.046-229-1771 FAX.046-229-1939
<https://www.tomei.or.jp/toseki/>

愛川クリニック

〒243-0303 愛川町中津2035-1
TEL.046-284-5225 FAX.046-284-2772
<https://www.tomei.or.jp/aikawa/>

とうめい綾瀬腎クリニック

〒252-1107 綾瀬市深谷中1-8-20
TEL.0467-70-1115 FAX.0467-70-2115
https://www.tomei.or.jp/ayase_clinic/

とうめい宮の里クリニック

〒243-0216 厚木市宮の里1-2-9
TEL.046-280-6222 FAX.046-280-6227
https://www.tomei.or.jp/miyanosato_clinic/

東名厚木メディカルサテライトクリニック 健診センター

〒243-0034 厚木市船子224
TEL.046-229-1937 FAX.046-227-0677
<https://www.tomei.or.jp/tams/>

新横浜メディカルサテライト 健診センター

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-11 金子第一ビル4F
TEL.045-471-3855 FAX.045-471-3856
<https://syms.tomei.or.jp>

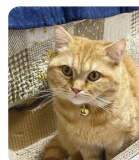
●無料送迎バスを運行しています。

詳しくはホームページの無料送迎バス時刻表をご覧ください。
<https://www.tomei.or.jp/hospital/>



皆さん初めまして、僕は“紅羽”と書いて“くう”と言います。パパはマンチカン、ママはペルシャなのでミヌエットという種類で、3月に2歳になります。生まれて50日目の時に今のおうちの子になりました。パイおじいちゃん(18歳)、柚おじいちゃん(16歳)、スコティッシュホールドの蒼お兄ちゃん(8歳)、桂花おねえちゃん(4歳)と人間の

パパ、ママと暮らしています。
僕の特技はジャンプと猫じゃらしを持ってくる事です。ジャンプは小さいときから鍛えているのでどこでも飛び越えて行けます。猫じゃらしは2階から投げてもらってそれを2階までもってきます。大人の猫さんはあまり遊んでくれないので、最近のブームは家の中に入ってきた虫さんを捕まえる事とIHの上にいることですがどっちもママに怒られます。小さい時に病気をして毎日薬を飲んでいますが、今は元気一杯!これからたくさんいたずらをしていこうと思います。



くう



パイ



柚



蒼



桂花

介護老人保健施設 さつきの里あつぎ

〒243-0034 厚木市船子322-1
TEL.046-227-1188 FAX.046-227-0033
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/roken/>

介護老人保健施設 なでしこの里 リハビリひろつか

〒254-0016 平塚市東八幡4-19-3
TEL.0463-23-7045 FAX.0463-22-4187
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/nadeshiko/>

厚木市南毛利地域包括支援センター

〒243-0039 厚木市温水西2-27-38 カーネーションパーク1階
TEL.046-250-1108 FAX.046-250-1105
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/houkatu/>

訪問看護ステーション さつき

〒243-0034 厚木市船子131-1
TEL.046-228-6556 FAX.046-228-6557
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/satuki/>

訪問看護ステーション さつき サテライト愛川

〒243-0303 愛甲郡愛川町中津3529 スズキビル2F 202号室
TEL.046-284-6677 FAX.046-228-6688

東名厚木病院居宅介護支援センター

〒243-0034 厚木市船子131-1
TEL.046-227-6557 FAX.046-228-6557
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/kyotaku/>

複合型施設マザーホーム戸室

〒243-0031 厚木市戸室1-29-1
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/motherhome/>

1F 多機能型事業所「にじいろ」

TEL.046-222-7772

看護小規模多機能型居宅介護事業「いわしぐも」

TEL.046-222-7773

2F 訪問看護ステーション「もみじ」

TEL.046-294-1177 FAX.046-294-1178

3・4F サービス付き高齢者向け住宅「マザーホーム戸室」

TEL.046-222-7755 FAX.046-222-7756